

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 当別町地域公共交通活性化協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

| ①補助対象事業者等 | ②事業概要 | ③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況 | ④事業実施の適切性 | ⑤目標・効果達成状況 | ⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む) |
|-----------------|---|---|-----------------------------|---|---|
| 当別町地域公共交通活性化協議会 | JR石狩当別駅南口～とうべつ整形外科～みどり野会館(青山線①) 運行日数 364日 運行回数 1,234回 | 地域住民の数も減少傾向にあり、利用者も増加していないが、ダイヤ・運行経路などを地域の実態に合わせてダイヤの見直しを行った。また、予約型の使用方法を時刻表に記載した。 | A 事業が計画に位置付けられたとおり適正に実施された。 | C 年間利用者数 目標 8,823人 実績 7,751人 沿線人口の減少が著しいこともあり利用者の増加に繋げることができなかった。 | 今後とも地区の人口は減少傾向にあるので、ダイヤや運行形態について検討する。 |
| 当別町地域公共交通活性化協議会 | JR石狩当別駅南口～とうべつ整形外科～青山会館(青山線②) 運行日数 241日 運行回数 964回 | | | | 高齢者が多い地区なので予約型線の使用方法やふれあいバスの乗り方などわかりやすく周知し、利用につなげる。 |
| 当別町地域公共交通活性化協議会 | JR石狩当別駅南口～当別町内～JR石狩当別駅南口(市街地予約型線) 運行日数 241日 運行回数 1,403回 【車両減価償却費等国庫補助】 | 利用者からのアンケート結果をもとに、デマンド対象地区の利用者の声を聴きニーズを把握した。また、バス停名と近隣の施設との関連がわかりづらいという意見をもとに、バス停の名称の変更など、サービス向上をさせた。 | A 事業が計画に位置付けられたとおり適正に実施された。 | A 年間利用者数 目標 3,763人 実績 4,039人 交通弱者の利用者増加 目標 2,070人 実績 2,817人 | 利用者は、全体的に伸びてきているが、まだ予約型線の使い方がわかっていない方が見受けられるので今後とも、使い方等を周知していく。 |
| 当別町地域公共交通活性化協議会 | 北欧の風道の駅とうべつ～JR石狩太美駅～ヒルズE5-3-17(西当別道の駅線) 運行日数 364日 運行回数 1,602回 | 新規 | A 事業が計画に位置付けられたとおり適正に実施された。 | A 月間利用者 目標 月平均600人 実績 月平均642人 | 当別町地域公共交通網形成計画の目標値である7,000人/年を達成したが、今後もダイヤの見直し等も含め利用者の増加を目指す。 |
| 当別町地域公共交通活性化協議会 | 北欧の風道の駅とうべつ～JR石狩太美駅～太美スターライト中央(スターライト道の駅線) 運行日数 364日 運行回数 573回 | | | | |

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

| | |
|-----------------------------|---|
| 協議会名： | 当別町地域公共交通活性化協議会 |
| 評価対象事業名： | 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金 |
| 地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性) | <p>当別町は、札幌市と境界を接し、札幌中心部から約15～25kmに位置しており、面積は、422.86平方キロメートル。人口(令和元年12月1日住民台帳)は、15,852人である。</p> <p>コミュニティバスは、スウェーデンヒルズ地区とJR石狩太美駅を経由し、札幌市北区とを結ぶ地域間幹線路線とこれに付随するフィーダー5系統を確保している。</p> <p>地域間幹線路線については、札幌市への通勤・通学で利用されているほか、北区にある大学病院に接続しているため、高齢者等の通院にも多く利用されており、大型スーパーも経由していることから日常生活に不可欠なものである。</p> <p>フィーダー系統は、コミュニティバスの基点となっているJR石狩当別駅南口で幹線と接続しており、市街地から離れている青山・みどり野地区からの輸送する青山線や市街地におけるデマンド交通として市街地予約型線を運行している。どちらの系統も高齢者の通院や買い物に利用されており、地域の足として必要不可欠なものと考えている。一方で、地方における人口減少により利用者の絶対数が少ない中で利用者の促進を図るため、運行形態を検討し、利用者ニーズに即した需要の高い交通を維持することが必要である。特に青山地区では、住民が減少しており今後も急激な住民増加が見込めないことから利用者実態に合わせた運行にするため、平成28年10月から青山線の路線の一部をデマンド型交通とし、運行内容を見直した。平成28年3月に当別町と江別市を結ぶ廃止代替路線である当江線が利用者の低迷から廃止となったことで、一部地域が交通空白地域となり、その地域に居住する住民の市街地への足を確保するため、平成28年10月から市街地予約型線の運行エリアを拡大した。</p> <p>また、平成29年9月に開業した道の駅へ向かう路線の実証運行を開始し、道の駅への誘客や西当別地区の公共交通の充実が図られたことから、平成30年10月から西当別道の駅線の本格運行を開始した。</p> <p>これらの住民に根付いたコミュニティバスシステムを維持し、交通弱者である子どもや高齢者の移動手段を確保することで、住民の住環境の向上、高齢者の行動範囲拡大による健康増進を図るほか、コミュニティバスを通じた環境教育による環境意識の啓発にも資することができる。</p> <p>一度失ってしまったバス交通を回復させるために5年の歳月を要したことを考えると、バス路線は容易に廃止すべきものではなく、町民の健康で安全な必要最低限の住環境を守るためにも、地域公共交通の中心であるコミュニティバスを確保することは重要である。</p> |

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

協議会名: 当別町地域公共交通活性化協議会

| ①事業の結果概要 | ②事業実施の適切性 | | ③事業の今後の改善点 (特記事項含む) |
|---|-----------|------------------|--|
| <p>総合時刻表の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいバスの総合時刻表を作成し、ふれあいバスの乗り方、市街地予約型線の使い方、系統図やJRとの乗り継ぎ情報などを記載し、町内外の人にわかりやすい時刻表とした。 ・総合時刻表は広く町民に周知するために全戸配布するとともに、公共施設、福祉施設や道の駅などにも設置した。 | A | 計画通り事業は適切に実施された。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き時刻表を作成し、全町民に配布する。 ・その時その時の課題に沿った内容を時刻表に記載し、住民の利便性を高める。 |
| <p>企画切符の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏・冬休み期間、小中学生にコミュニティバスを有効活用してもらうための夏・冬休み定期券を作成、発行してふれあいバスの利用促進を行った。 | A | 計画通り事業は適切に実施された。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き夏・冬休み定期券の作成、発行を継続し、小さなころからバスに慣れ親しんでもらい、将来の利用者拡大へ繋げる。 |